

令和3年11月25日

報道機関 各位

地域基幹産業を再定義・創新する人材創出プログラム「ENGINE」における企業**訪問(ENGINE インターンシップの試行)のお知らせ**

2020年度から始まった信州大学・富山大学・金沢大学が連携して取り組むENGINEプログラム(<https://enpg.u-toyama.ac.jp/>)では、ENGINEプログラムに参加する学生が就職活動始める2年後に備えて、産学協働課題解決型インターンシップ(通称 ENGINEインターンシップ)のプロトタイプ・プログラムの開発を始めました。ENGINEプログラムにおけるインターンシップは、3大学が連携することによりインターンシップ先の企業が長野県・富山県・石川県の広域になるばかりでなく、企業の特長や課題をも知ることによって、就職して企業人となったときに取り組むべき課題解決や新しい価値創造への参画意欲を促す好機となります。

産学協働課題解決型インターンシップ(通称 ENGINEインターンシップ)の開発にあたっては、ENGINEプログラムに参加する3大学の主に2、3年次生が、ENGINEインターンシップの試行として、長野、富山、金沢の企業やフィールドで半年間活動し、今後のインターンシップ受講生のモデルとなるプログラムづくりに参加します。

11月からは、長野県松本市や石川県金沢市の企業や現地フィールドへも訪問しています。

是非、報道の皆さまにご取材いただきたくご案内申し上げます。

取材にお越しいただける場合は、下記問い合わせ先へ、前日 18 時までにご連絡ください。

記**【訪問企業】**

- ① 日本海ガス絆ホールディングス株式会社 様
【日時】 2021年12月1日(水)13:30~16:00
【会場】 日本海ガス絆ホールディングス(富山市城北町2番36号)
- ② 三協立山株式会社 様
【日時】 2021年12月2日(木)13:00~17:15
【会場】 三協立山(高岡市早川70番地)
- ③ 立山科学グループ 様
後日、改めて、詳細をお流しします。

【内容】

学生 2~3 名が企業を訪問し、社会人の皆さんにインタビューを行い、その様子を動画として記録します。後日、1つの ENGINE プログラムの PR 映像として作成する予定です。

◆産学連携 課題解決型インターンシッププログラムの4つのポイント

◆産学連携 課題解決型インターンシッププログラムで捉える求める人材像とは？

※詳細は別紙をご参照ください。

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学 ENGINE プログラム(担当:嘉瀬井(地域連携戦略室))

Email ; kasei@ctg.u-toyama.ac.jp

電話 ; 076-445-6955 / 090-1737-8208(当日のご連絡)

【別紙】

産学協働課題解決型インターンシップについて

◆概要

対 象 : 1～4年生
内 容 : 「ENGINE プログラムで身に付けられる力を実感できる「産学連携型インターン」を企業と一緒に開発する

インターンシップへの参画企業 : 富山地域: 三協立山、日本海ガス絆ホールディングス、立山科学グループ

信州地域: 東洋観光事業、長野銀行、松本山雅

金沢地域: 三谷産業、山岸製作所、こみんぐる

※ インタビューで課題のヒアリングなどを行う。感染状況を見ながら、可能であれば現場に伺う。

※ チューリップテレビ、信越放送、北陸放送、TBS テレビには、動画作成においてアドバイスをいただく

訪 問 企 業 : ① 日本海ガス絆ホールディングス株式会社 様

【日時】 2021年12月1日(水) 13:30～16:00

【会場】 日本海ガス絆ホールディングス

② 三協立山株式会社 様

【日時】 2021年12月2日(木) 13:00～17:15

【会場】 三協立山

③ 立山科学グループ 様

【日時】 2021年12月10日(金) 13:15～16:00

【会場】 立山科学グループ

参 加 費 ・ 単 位 : 無料・なし

課 題 : 企業課題をヒアリングし、どんな体験をすることで変革人材に必要な力を伸ばすことができるか、プログラム案を共同開発する。そのためのノウハウを学び、まとめて発表する。その後、自身が実践することも可能とさせていく。

◆ 産学連携 課題解決型インターンシッププログラムの4つのポイント

- 信州大学・富山大学・金沢大学の3大学連携のプログラムで、他大の学生との切磋琢磨できる
→各大学2名ずつの合計6名でひとチームになり、チームで課題に取り組む中で、相互に刺激し合い、学び合います。
- 社会で真に求められる「力」や「スキル」を磨くことができる
→3地域の企業に「これから求められること」を調査・分析しました。その「知見」をもとに、プログラムを構成しています
→課題解決の過程を通じて、地域で活躍しているリーダーの方へのインタビューの機会もあります

- 「長期」で、「学生主体」で、「実践」を重視して、プログラムを構築。だからこそ圧倒的に成長できる
→本プログラムは、所謂課題解決の提案型のプログラムではありません。自分たちの考えたアイデアを実際に「カタチ」にしてくれます。
- 「成長」を促す、手厚い支援体制を構築。さまざまな社会人から多くのフィードバックがもらえる
→大学の先生はもちろんのこと、各地域の地元の企業や、テレビ局、東京に本社を構えるコンサルティング会社から各段階で多様なフィードバックをもらうことができます。

◆ 産学連携 課題解決型インターンシッププログラムで捉える求める人材像とは？

インターンシップでは、企業が求める人物像を元に作成したルーブリック(人材能力評価指標)を軸に進めています。ルーブリックでは、大きく分けて、創新(現状を把握する力、目的を設定する力、変わり続ける力)、連携(繋ぎ合わせる力、巻き込む力、役割を果たす力)、突破(粘り強くやり抜く力、失敗を恐れず挑み続ける力)の能力があります。こうした力は、世の中や企業を変革するのに必要な力であり、企業で求められる人材であることがアンケートを通して分かりました。このインターンシップでは、そうした能力を持つ企業の方々にインタビュー取材を行うことで、能力の身に付け方を学生自身が考えます。

◆プログラムの大きな流れ

	大テーマ	日程 (16:50-18:20)	内容 (取材以外は、オンラインで実施)	メイン担当
0 コマ目	ガイダンス	9/1	ガイダンス	大学教員
1 コマ目	チーム設計	9/15	チームビルディングとテーマの共有	大学教員
2 コマ目	問題発見および 課題設定編	9/29	教員によるフィードバックとアドバイス	大学教員
3 コマ目		10/13	課題設定および解決の方向性提示→中間報告	大学教員/協力企業/テレビ局
4 コマ目	解決策立案編	10/27	取材の方向性に関する F B	各地方局のご協力
5 コマ目		11/24	中間発表① (ラフ案)	各地方局のご協力
			【学生による企業取材】 2021年12月1日(水)13:30~16:00 日本海ガス絆ホールディングス株式会社 様 2021年12月2日(木)13:00~17:15 三協立山株式会社 様 2021年12月10日(金)13:15~16:00 立山科学グループ 様	※今回はこの部分です
6 コマ目		12/22	中間発表② (プロトタイプ案)	各地方局のご協力
7 コマ目	発表&振り返り	1/12	最終提案&発表会&相互アドバイス→最終報告	大学教員/協力企業/テレビ局
8 コマ目		1/19	学びの共有&今後の目標設定	大学の教員